

topic
1

第17回林雅子賞が決定いたしました

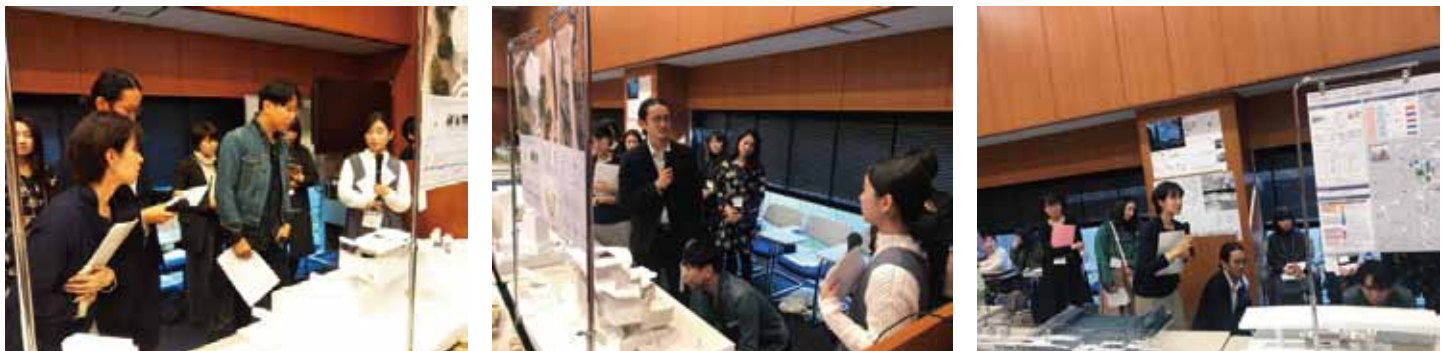
林雅子賞は、日本女子大学家政学部生活芸術科住居専攻（1962年より家政学部住居学科）の第一期生である国際的建築家 林雅子先生を記念し、優れた女性建築家の育成と本学住居学科の発展のために、2002年に「住居の会」により創設されました。日本女子大学家政学部住居学科の卒業制作及び、修士制作の作品が対象となります。

受賞者には賞状が贈呈されます。

第17回林雅子賞選定会は2019年2月16日（土）に行なわれました。

外部よりお呼びした3名の選定委員の選定により、応募者22名の中から各賞が決定いたしました。

選定委員長：石上 純也氏（建築家）／選定委員：藤村 龍至氏（建築家）／選定委員：永峰 麻衣子氏（建築家,47回生）



林雅子賞

title

2018年度 卒業制作 建築デザイン専攻 宮研究室

石川 紗也佳 さん

name

一本の樹木と、建築
都市に森を作る新たな建築文明の提案

Concept

樹木と対峙するとき、そこには畏怖の念が生まれる。

樹木のある空間には魅力がある。その本質は、「畏怖」と「安心」の二面性であると私は考える。圧倒的生命力への畏怖の念、人に快適さを与える安心の念、この相反する要素が同時に存在することが樹木本来の姿である。

現在の都市は畏怖の要素が排除され、人にとって心地よい部分のみが強調された樹木であふれている。このような都市に存在する樹木は、本来の自然な姿をしているとは言えず、もはや“人工物”であると言えるだろう。

人々の往来が激しく、日々移り変わってゆく都市にこそ、1000年という長い時間その場に存在し続ける樹木と共に生きる建築形態が必要であると考えます。

以上のことから、人や建築の時間単位で樹木を伐採することなく、樹木の時間単位で人や建築の存在を考えることで、樹木への畏怖の念が忘れ去られることなく留まり続ける、新たな建築文明の手法を提案する。





石上選定委員特別賞

name

2018年度卒業制作 居住環境デザイン専攻 宮研究室

title

塩田 佳織 さん

2次元・3次元空間の交錯

—無意識を顕在化するミニシアター—

Concept

風景が平面的に見えた時や、奥行きを感じた時、新たな気づきを得ることがある。空間認識と主体性の関わりに着目し、このような体験を自らの歩みによって獲得することができるミニシアターを提案する。

〈風景や人々の動きなどの日常〉と、〈映画の中の非日常〉それぞれのシーンを面として等価に扱い映像作品の世界観へ入り込んでいくシークエンスを作り出す。予想しなかった風景や作品に感覚的に出会う体験は、日常の風景を今までとは違う新しい風景に変えるだろう。



藤村選定委員特別賞

name

2018年度卒業制作 居住環境デザイン専攻 宮研究室

title

米田 葉子 さん

Home Address Terminal

—属性を超えて相対し、許容し、集う—

Concept

ホームレスをはじめとする「住居喪失」問題の解決には、社会的信用につながる「住所」の獲得と同時に、そうでない私たちの「歩み寄り」が欠かせない。「相対化」を通し、ホームレスへの支援だけでなく、そうでない私たちの意識を変えるきっかけを提案する。荷物預かりや洗濯行為を通し上層へ向かうことで、人々が属性を越え、許容された空間となる。



永峰選定委員特別賞

name

2018年度修士制作 篠原研究室

title

阿部 祥子 さん

緩すスレシヨルド

Concept

全国各地で閉校となり、取り残された画一的な建築の小学校を“緩す”提案である。

ヘルマンヘルツベルハーが提唱した、出会いと会話の場を提供する建築的操作である「スレシヨルド」事例を収集し、それらを抽象化させた分類を行った。するとスケールに縛られない自由な設計手法が生まれてくる。これらをもう一度、その場所ならではのリアルな建築へ還元してみよう。淡淡とそこに存在した学校に様々なスレシヨルドが顔をのぞかせるはずだ。

本研究において、スレシヨルドは「動作の息継ぎを豊かにする操作」と定義する。「息継ぎ」とは動作と動作の間に生まれる余韻。これの挿入により画一的な空間が緩み、過ごす人々の生活を豊かにしていく。

